第 161 号/ 静岡県

消防学校ニュース

令和7年6月号

初任科第96期第1回野外訓練

活動方針　全員で当たり前に任務完遂

5月22日（木）、初任科第96期の学生は、約20kgの資器材を背負い、全行程約30kmの野外訓練に臨みました。

この訓練は、消防職員初任教育の一環として実施するものであり、野外での集団訓練を通じて消防職員が消防活動を遂行するために必要な強靭な体力、精神力の養成、災害における要救助者の救出を目的とするものです。

全体目標

全ては助けを求める人のために139人全員で完歩

班目標

1班　全員で歩き全員で助ける

助けるために歩き続け山を制して心を鍛える

2班　己に勝つ

3班　ただひたすら歩け

4班　全員で全員を欠けさせない

5班　全員で励まし合い完歩する

6班　全員で完歩

行程予定

消防学校～浜石岳山頂（往復）

（総代　西川学生　出発時の一言）

『苦しい 疲れた もうやめたでは 人の命は救えない』という言葉を常に念頭に入れ、体調不良者が多数いるため、当初の目標である「139 人全員で完歩」は達成できませんが、参加している学生全員で完歩できるよう励まし合い、やり遂げましょう。

（担当教官から）

「この訓練は災害現場想定である、当たり前に消防士として全員で任務を完了させる、リタイアなどありえない」とこれまで伝えてきました。

開始直後から集合時間の遅延、日常伝えている当たり前のことが疎かになり、最後まで指導を重ねました。

体調不良者も多く、この場に立ち災害対応に臨めない学生や、リタイアとなった学生も多くいました。

必ずその先に助けを待っている人がいる、その中で現場に到着できないことなどありえない、体調不良により参加すらできない学生、途中リタイアとなった学生、個ではなく隊として活動する困難さを感じた学生、支え合いの重要性を感じた学生もいたはずです。

つまづくことに興味などありません。どう立ち上がるのかが重要と考えます。この訓練で感じたものを心に刻みながら、止まらず努力することを当たり前に続けてほしいと考えます。

教務課主査　山下　大輔（駿東伊豆消防本部から派遣）

初任科第96期ホットトレーニング

５月 28 日（水）及び 30 日（金）の２日間、ホットトレーニングを実施しました。

この訓練では、①建物火災における火災現場に類似した熱環境及び濃煙を体感すること、②個人装備品の重要性を理解すること、③火災初期からの成長過程を確認することの３つを目的として、学生に伝え、訓練に臨みました。

教官の徹底した安全管理の下、実火災に近い熱環境を体験することで、個人装備の重要性を実感するとともに、火災性状の理解と火災の危険性を感じることのできる良い訓練となりました。

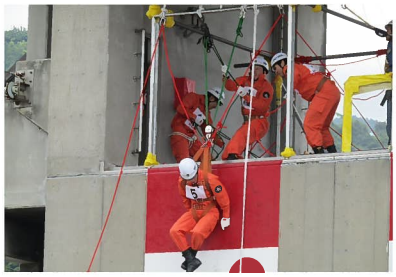
（担当教官から）

現場経験のない学生にとって実火災を疑似体験できたことは、個人装備を完全着装する重要性や火災性状を理解する上で貴重な経験になったことと思います。今回の訓練で得た事を今後の訓練や、所属へ戻ってからの現場活動に活かしてもらえることを期待します。

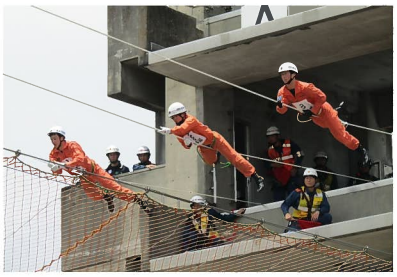
教務課主査　都築　克典（静岡市消防局から派遣）

静岡県消防救助技術大会

6 月 12 日（木）、第 53 回静岡県消防救助技術大会（静岡県消防長会主催）が本校で開催されました。県内 16 消防本部（局）から精鋭が集まり、日頃の訓練成果を競い合いました。



引揚救助



ロープブリッジ渡過

ロープブリッジ救出

はしご登はん

ロープ応用登はん

ほふく救出

障害突破

初任科学生の任務

競技掲示板管理

審査表・タイム表回収

プラカード保持

初任科学生の学生演技（体力向上体操）

（担当教官から）

初任科学生は、救助大会運営補助として、プラカード保持、掲示板及び審査表の回収を行いました。間近で各種目に全力で競い合う先輩職員の姿を観ることができ、多くの刺激を受けたことと思います。また、体力向上体操では、多くの先輩職員の前でも臆すること無く、気持ちの入った演技を披露することができ、学生たちの成長を感じました。

今後の教育訓練も全力で臨み、更なる成長を期待します。

教務課主査　蛭間　淳（静岡市消防局から派遣）

初任科 雨中での訓練　～雨に負けない、強い意志～

初任科の訓練は、雨天決行、猛暑も関係ありません。空から降り注ぐ雨は、学生の熱気を冷ますことはできません。しとしとと降る雨の中、学生は合羽を着て、真剣な表情でホース操作や訓練礼式に取り組んでいます。教官の厳しい指導のもと、汗と雨に濡れながら、体力と技術を磨いています。悪天候は、むしろ学生の闘志を燃え上がらせるようです。雨に打たれ、時には強い日差しに照らされながらも、学生は日々努力を重ねています。

白鳥校長の一言（時事雑感）

消防は「熱量と愛情」

先月、消防大学校で新任学校長としての研修を受けてきました。約２週間にわたる授業や訓練はいずれも得がたい貴重な機会でしたが、とりわけ消防行政のトップたる消防庁長官からの講話が深く心に刻まれました。

長官から開口一番発せられたのが「消防は熱量と愛情」というフレーズ。行政職である自分に対し、「真に消防職員になれ」という激励と受け止めました。

この言葉を考えるうち想起されたのがプロ野球のイチロー選手です。同氏は日米通算最多安打を放つなど、球史に名を刻む偉大なプレイヤーであることは説明するまでもありませんが、野球に対する類い稀なる熱量と愛情が、その偉業を支えたと言って過言ではありません。そして、バットやグローブなどの道具を非常に大切にしていたことでも知られています。

翻って目を転じると、消防職員も自身が使うものをとても大事にされています。機材はもとより制服、靴に至るまでほとんどすべて。消防車両はホイール、タイヤまでピカピカに磨き、備えを怠らない。

イチロー選手と消防を同一に論じることは少しオーバーかもしれませんが、「もの」を大切することで、仕事への意識や責任感、感謝の念が高まるのだとすれば、長官がおっしゃった「熱量と愛情」は、こうしたことから始まると言えないだろうか。

本校の初任科教育でも、装備や機材を適切かつ丁寧に取り扱うことを厳しく教えている。この教育を今後も徹底してもらいたいと思う。私自身も、熱量と愛情を持っているかどうか自らに常に問いかけながら、仕事に向き合っていきたい。

編集・発行/ 静岡県消防学校　〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎; 054-369-1190　FAX; 054-369-1197　E-mail;fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内･紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。　静岡県消防学校　検 索